

訳26

ちようどそのとき、白い鳥で、  
口ばしと脚とが赤い、鳴ほどの  
大きさである鳥が、水の上で遊  
びながら魚を食べている。

訳27

京では見かけない鳥なので、居  
合わせた人はだれも見知らない。

訳28

渡し守に尋ねたところ、「これ  
が都鳥だ。」と言ふのを聞いて、  
訳29名(な)にし負(お)はば

(都鳥という)名を

背負つて いるなら

いざ言(こと)問(と)はむ

さあ尋ねよう、

都鳥(みやこどり)

都鳥

わが思ふ人は

私が恋しく思う人は

ありやなしやと

無事かどうかと

訳30と詠んだので、舟の中の人はそ  
ろつて泣いてしまつた。

問一 都鳥を見かけて渡し守に尋ね  
たのはいつか?

ア 舟に乗る前 イ 舟に乗つた後

訳29名(な)にし負(お)はば

(都鳥という)名を

背負つて いるなら

いざ言(こと)問(と)はむ

さあ尋ねよう、

都鳥(みやこどり)

都鳥

わが思ふ人は

私が恋しく思う人は

ありやなしやと

無事かどうかと

問二

「都鳥」という名を背負つてい  
るなら」と「さあ尋ねよう」  
の間に入る言葉は次のどれか。

ア恋愛には詳しいだろうから  
イ都のことには詳しいだろうから  
ウ私たちの都を思う気持ちがわかる  
だろうから

問三

この歌の中の言葉をもとにつけられた橋の名は?

ア業平橋

イ言問橋

ウ吾妻橋

#### 問四

この話の初めに、「男が自分自身を必要のない者と思い込んで、『京には住むまい。』と思つて旅に出た」ことが書いてあるが、「唐衣：」「駿河なる：」「名に：」の歌をふまえると次のどちらの可能性が高いと言えるか。

ア京が嫌になつて旅に出た。  
イ京にいられなくなつて旅に出た。

問五 次の三つの歌を比較して言えることは？

唐衣： 都には妻がおり、この旅には感じることが多い。  
駿河： 私への思いが薄れたのか、夢に妻が出てこない。  
名に： 都鳥よ、妻が無事かどうか教えてくれ。

ア妻への思いに変化はない。  
イ妻への思いが後になるほど強まつていている。

ウ妻への思いが後になるほど弱まつていている。

